



レンタル
します

地盤改良機誘導システム

従来工法

- 事前に杭芯を測量して測量杭を打つ
- 誘導員が測量杭を見ながら所定の位置まで誘導
- オペレーターは指示に従い地盤改良機の移動操作を行う

問題点

- 誘導したいポイントが多い場合、杭芯の測量に時間がかかる
- 汚泥土の盛り上り土によって、目印を見失うケースが多々ある
- 地盤改良機付近に誘導員がいるので接触事故の危険性がある
- 施工中、施工後の精度結果が残らない



そんな時は 情報化施工で作業効率・安全性UP!

〈新技術活用のメリット〉

- ★基地局設置(VRS方式の場合不要)、杭芯データ入力の手間はありますが従来の測量ロスがなくなり工程、施工性向上
- ★地盤改良機付近に誘導員がいないので安全
- ★2軸傾斜計を使用する事により杭の倒れをモニター表示することが可能(別途オプション)
- ★施工結果がデータベースで座標が残るので施工終了後、杭毎の偏心量の帳票作成が出来る

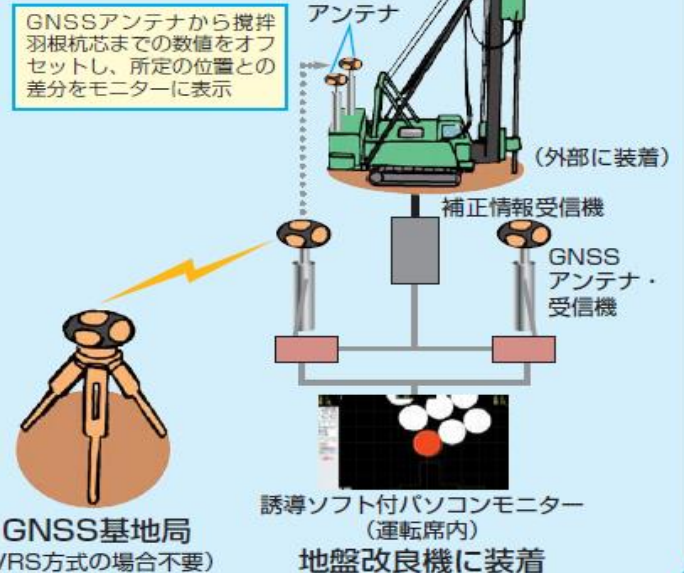
システム画面

<オペレーター室内誘導画面例>

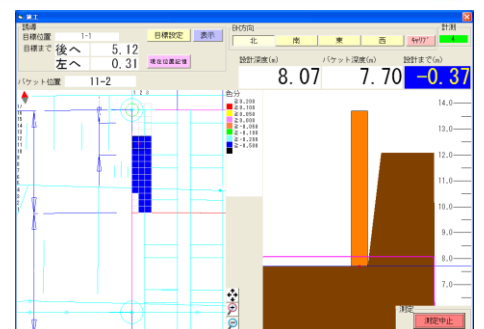
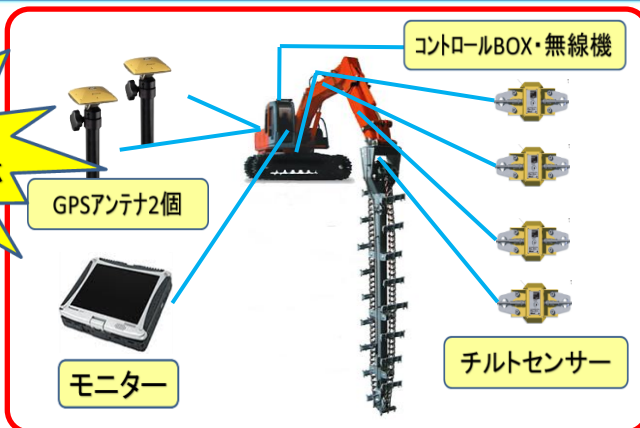


- ・タッチパネルにより、簡単で確実な操作が可能
- ・施工データはUSBで取り出し、事務所で印刷可能

システムイメージ



バックホウ型
地盤改良機にも対応



施工中モニター例